

株式会社レゾナック・ホールディングス 2022年通期 決算説明会 Q&A要旨

日時：2023年2月14日（火）17:00～18:30

説明者：代表取締役社長 社長執行役員 CEO 高橋 秀仁、取締役 常務執行役員 CFO 染宮 秀樹

*内容は、開催日時点の情報に基づいております。

【全社】

Q 社長として人材育成に注力していく方針とのことだが、具体的な考え方を教えてほしい。

A 社員にはレゾナックのバリューを共有した上で、様々な経験を積みながら成長してもらいたい。レゾナックのポートフォリオには多様な事業があり、多くの経験を積むことができる。様々な性質の事業において、企業価値・事業価値の最大化を意識しながら、相応の緊張感を持って仕事に取り組むことが成長につながると考えている。

Q P17 構造改革の推進において、“赤字製品の撲滅”という記載があるが、こちらはどのような時間軸で取り組んでいくのか教えてほしい。

A 2025年の利益目標達成に向けた取り組みだが、取り組み自体は今期から行っていく。但し、供給責任もあり、製品によっては一定の時間が必要になる。

【半導体・電子材料セグメント】

Q 23年1Qが赤字の見通しとなった背景を教えてください。

A 22年4QにHDメディアの需要が大きく落ち込んでおり、1Qもその状況は続くとしている。半導体材料の中でも、需要減速感がより強いメモリー向け比率の高い製品や、顧客の在庫水準が高い製品の落ち込みは大きくなる見通し。

半導体材料は何とか黒字を維持しているが、HDメディアの需要低迷とのれん等の償却費が赤字見通しの主要因。

【ケミカルセグメント】

Q 22年3Qから4Q、4Qから23年1Qの利益変動要因を教えてください。

A 石油化学の4Qはナフサの値下がりもあり、厳しい利益水準だった。1Qも厳しい環境は継続する。黒鉛電極は4Qには堅調な利益を維持したが、1Qにはユーティリティコストの上昇により減益を見込んでいる。化学品の業績は堅調に推移しており、1Qもそれが継続する見通し。

以上

*本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。なお、法令に定めのある場合を除き、当社はこれらの将来予測に基づく記述を更新する義務を負いません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、新型コロナウイルス感染症拡大が世界経済に与える影響、国際情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極等製品の需要動向および市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。